少子化課題における解決優先度に関するレポート

～「恋愛・婚活・結婚調査2015」「婚活実態調査2016」「少子化に関する調査2016」の分析から見えた視点～

リクルートブライダル総研

2016年12月

まだ、ここにない、出会い。
RECRUIT

本レポートについては、現状置かれている社会課題である「少子化」について調査、分析したものである。それは、個人の生き方や選択の自由について示したものではなく、あくまでも社会構造や社会的視点でのレポートであり、未来にむけた課題解決の優先度を示すという目的でまとめている。

また、「少子化」という課題においては、「既婚者のみ」「独身者のみ」という部分的な分析が多くみられるが、出産に至るプロセスを総合的に検証する観点から、「恋愛」「結婚」「出産」というポイントを取上げ、トータルで分析したものである。

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

本レポートの主なメッセージ

少子化という社会課題では、意欲のある人において「出会いの欠如」を解決することの効果が大きく、優先度が高い。より多くの資源を投下しサポートしていくことが重要

- ✓ 現在恋人がいない人の中で「恋人ほしい層」は推定約847万人
- ✓ 「恋愛意欲のある層」を「恋人あり」へ変容させることの実現確率が低い
- ✓ 未婚者では「出会いの欠如」が、既婚者では「現状の子ども数に満足」「自信・覚悟の欠如」「自分の時間を優先」が大きな課題
- ✓ 「恋愛や結婚の意欲のある人に実現してもらう」視点でみると「出会いの欠如」の解決が優先度が高い
- ✓ 「出会いの欠如」を解決した場合（恋愛や結婚対象と出会うことができたら）、結婚後に子どもを持つであろう人数は、シミュレーション上、約11.3万人／年（推定）

既存コミュニティの外に「出会いの場」を提供すれば「出会いの欠如」は解決の可能性が高い。キーワードは「第4のコミュニティ」

- ✓ 出会いの場では、既存コミュニティ外にポテンシャルがある（「第4のコミュニティの創出」がキーワード）
- ✓ 背景には、若者の「既存コミュニティ内への配慮」や「リスク回避志向」がある
- ✓ 実際に、2015年の婚姻者のうち8.3%が婚活サービスで相手を見つけている（2000年:1.4%、13年より急増）。今後、既存コミュニティ外での出会いが受容される可能性が高い

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

１－１．少子化課題の解決優先度

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

ボリュームと変容難易度（「恋愛、結婚、出産」×「意欲、状態変容」／20~40代）

※詳細データはP21~27

「ボリューム」および「変容可能性」の観点から「恋愛意欲のある層」を「恋人あり」へ変容させることの実現確率が低い

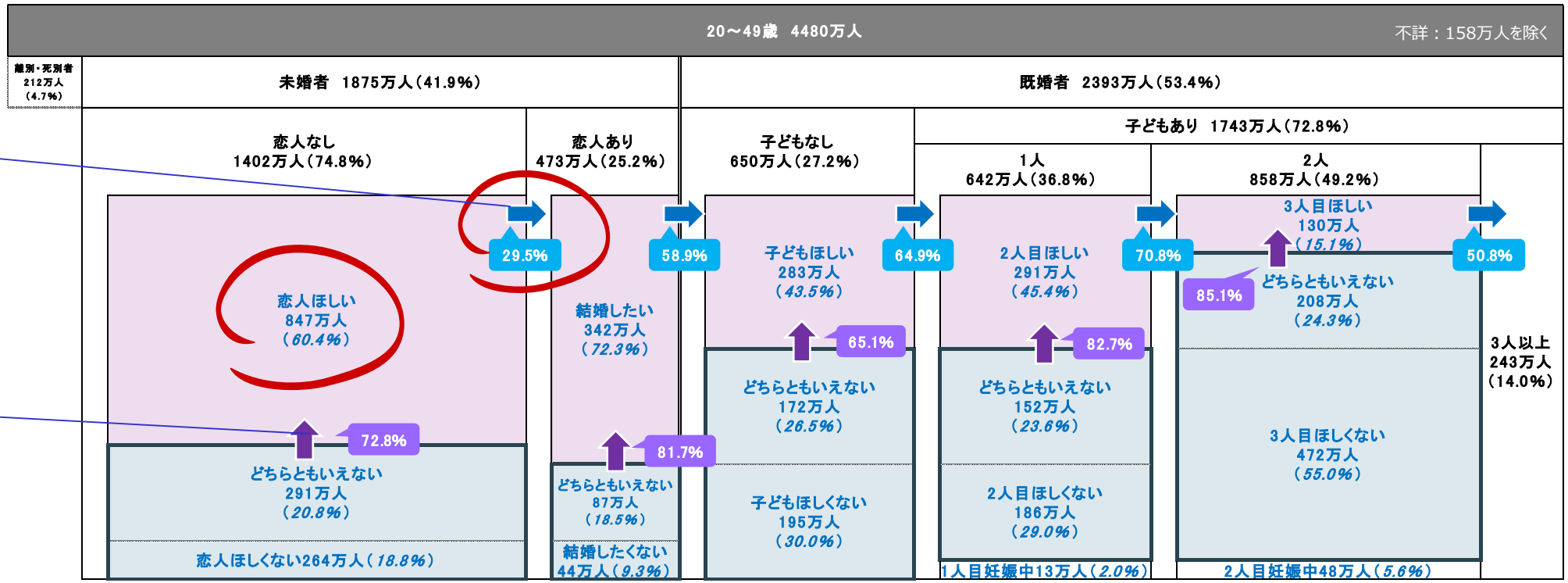
- ✓ 現在恋人がいない「恋人ほしい層」は推定約847万人
- ✓ 恋人がほしかった人のうち、恋人できた人は29.5%に留まっている

横の動き

【「したい」の実現確率】：意欲があった人のうち、実際にその状態を実現した人の割合（「実現した人／意欲があった人」の割合）

縦の動き

【意欲向上確率】：意欲がない人（どちらともいえないを含む）のうち、何かしらの対策（対応）で意欲が上がる人の割合（「100%-何があっても動かない人」の割合）



※数値は四捨五入にて算出

「平成27年度国勢調査（総務省）」および
「少子化に関する調査2016（リクルートブライダル総研）」より算出

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

少子化における解決すべき課題

※詳細データはP28~31

恋愛から結婚、出産まで「意欲がない理由」「できないと思う理由」を調査し、そこから少子化の主な課題を分類。全部で11種類の課題がある。

【未婚者の解決すべき課題】

- ①経済的問題
- ②自分時間優先（時間的制約）
- ③知識・経験的問題
- ④自信・覚悟の欠如
- ⑤意義の欠如
- ⑥体調の不備
- ⑦家庭環境不備
- ⑧出会いの欠如

※⑧は未婚者のみの課題

【既婚者の解決すべき課題】

- ①経済的問題
- ②自分時間優先（時間的制約）
- ③知識・経験的問題
- ④自信・覚悟の欠如
- ⑤意義の欠如
- ⑥体調の不備
- ⑦家庭環境不備
- ⑨社会的環境不備
- ⑩職場環境不備
- ⑪現状の子ども数満足

※⑨~⑪は既婚者のみの課題

これらの課題の解決優先度をつけるために、シミュレーションにて優先度を導出する

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

解決すべき課題の優先度算出方法（算出の考え方）

※詳細データはP32~38

仮に完全に課題が解決されることによって子どもを持つ人の数をシミュレーション。課題解決の効果をはかる。

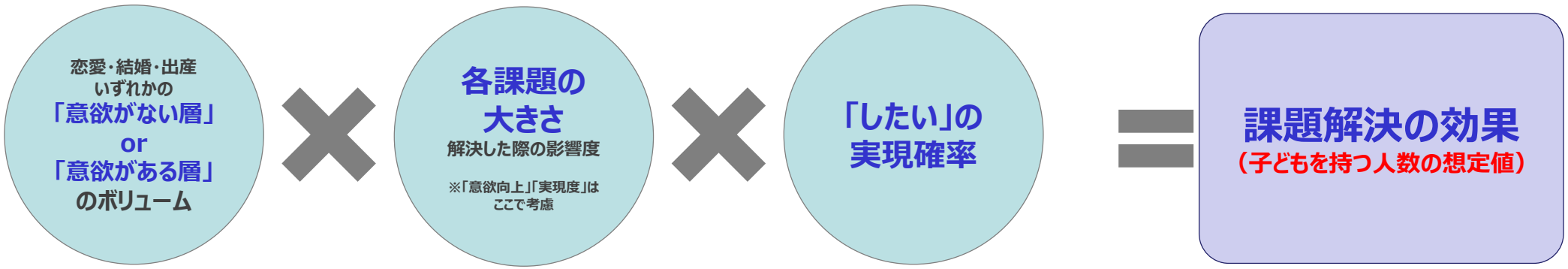
ステップ１　前頁の各課題について、課題の大きさを把握

ステップ２　各課題が完全に解決されたとした時の効果を算出し、課題の解決すべき優先度を導出

※ここでは相対的な効果をはかるために、非現実的な最大値を出し比較

【算出の考え方】

「意欲向上」と「実現度」に分けて、以下の考え方で効果をシミュレーションする



※P5より　※詳細はP32～34　※P5より

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

課題解決による将来的効果（シミュレーション結果）

仮に完全に課題が解決されることによって子どもを持つ人の数をシミュレーション。各課題解決の効果を相対的にはかる。

※ここでは相対的な効果をはかるために、非現実的な最大値を出し比較

意欲向上への効果

各課題の解決によって、未婚者のうち、子どもを持つであろう人の想定数（2人目、3人目までの出産効果含む）

（単位：万人）	結婚するであろう人の数	子どもを持つであろう人の数（延べ数）
①経済的問題	55	21
②自分時間優先（時間的制約）	116	44
③知識・経験的問題	0	0
④自信・覚悟の欠如	13	5
⑤意義の欠如	87	33
⑥体調の不備	0	0
⑦家庭環境不備	8	3
⑧出会いの欠如（相手がいない）	19	7

各課題の解決によって、既婚者のうち、子どもを持つであろう人の想定数（現在の子どもの人数別）

（単位：万人）	【子ども0人 】1人目の子どもを持つであろう人数	【子ども1人】2人目の子どもを持つであろう人数	【子ども2人】3人目の子どもを持つであろう人数
①経済的問題	72	63	85
②自分時間優先（時間的制約）	102	55	65
③知識・経験的問題	15	28	30
④自信・覚悟の欠如	106	65	66
⑤意義の欠如	45	12	16
⑥体調の不備	70	45	51
⑦家庭環境不備	53	46	71
⑨社会的環境不備	40	39	48
⑩職場環境不備	12	10	12
⑪現状の子ども数満足	0	72	110

「したい」の実現への効果

（単位：万人）	結婚するであろう人の数	子どもを持つであろう人の数（延べ数）
①経済的問題	133	51
②自分時間優先（時間的制約）	52	20
③知識・経験的問題	101	38
④自信・覚悟の欠如	310	118
⑤意義の欠如	18	7
⑥体調の不備	44	17
⑦家庭環境不備	12	5
⑧出会いの欠如（相手がいない）	372	142

（単位：万人）	【子ども0人 】1人目の子どもを持つであろう人数	【子ども1人】2人目の子どもを持つであろう人数	【子ども2人】3人目の子どもを持つであろう人数
①経済的問題	11	18	13
②自分時間優先（時間的制約）	15	8	7
③知識・経験的問題	10	6	5
④自信・覚悟の欠如	15	13	7
⑤意義の欠如	5	3	1
⑥体調の不備	60	37	22
⑦家庭環境不備	16	18	17
⑨社会的環境不備	6	8	8
⑩職場環境不備	5	3	5
⑪現状の子ども数満足	0	2	6

※ここでは、100万人（想定）以上の箇所にハッチング

※数値は四捨五入にて算出

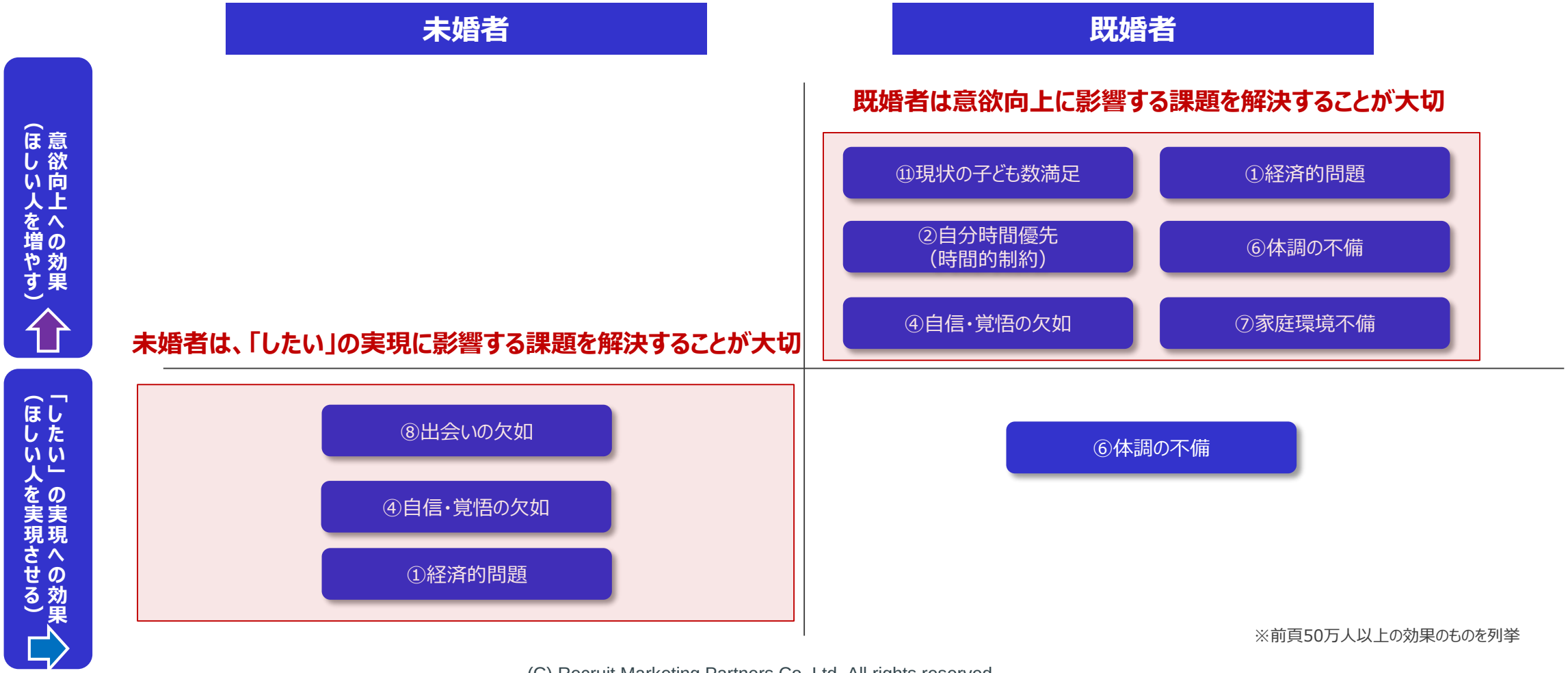
「少子化に関する調査2016（リクルートブライダル総研）」および
「恋愛・婚活・結婚調査2015（リクルートブライダル総研）」より算出

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

少子化の主要課題（シミュレーション結果より「意欲向上」と「『したい』の実現」別）

影響が大きい課題が多岐にわたる。特に未婚者は「『したい』の実現」の、既婚者は「意欲向上」の課題解決の効果が大きい

＜解決すると効果が高い課題＞

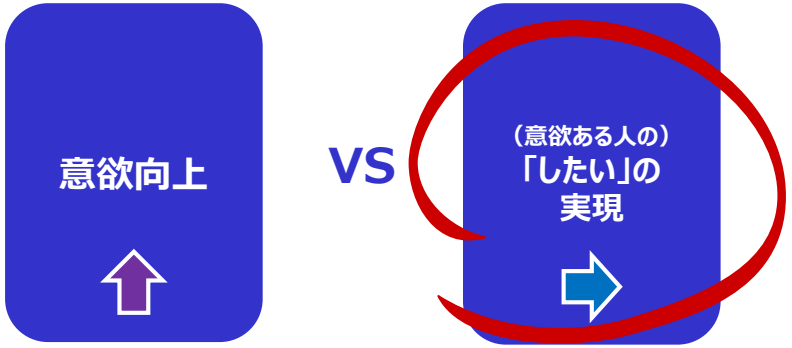


※前頁50万人以上の効果のものを列挙

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

解決すべき課題の優先度の選定

【優先度の選定①】



1. 「意欲のない人」に訴求することは、個人の価値観によるところもあり、配慮をともなう
2. 『「したい」気持ちを向上する』ことは難易度が高い

それらの観点を考慮し、まずは『「したい」の実現」』から進めていくことが優先度が高いと判断した。

【優先度の選定②】

「したい」の実現への効果

（単位：万人）	結婚するであろう人の数	子どもを持つであろう人の数（延べ数）
①経済的問題	133	**51**
②自分時間優先（時間的制約）	52	**20**
③知識・経験的問題	101	**38**
④自信・覚悟の欠如	310	**118**
⑤意義の欠如	18	**7**
⑥体調の不備	44	**17**
⑦家庭環境不備	12	**5**
⑧出会いの欠如（相手がいない）	372	**142**

（単位：万人）	【子ども0人 】1人目の子どもを持つであろう人数	【子ども1人】2人目の子どもを持つであろう人数	【子ども2人】3人目の子どもを持つであろう人数
①経済的問題	**11**	**18**	**13**
②自分時間優先（時間的制約）	**15**	**8**	**7**
③知識・経験的問題	**10**	**6**	**5**
④自信・覚悟の欠如	**15**	**13**	**7**
⑤意義の欠如	**5**	**3**	**1**
⑥体調の不備	**60**	**37**	**22**
⑦家庭環境不備	**16**	**18**	**17**
⑨社会的環境不備	**6**	**8**	**8**
⑩職場環境不備	**5**	**3**	**5**
⑪現状の子ども数満足	**0**	**2**	**6**

※数値は四捨五入にて算出

KEY

『「したい」の実現』の中で最も効果が高い「出会いの欠如」の解決が優先度が高い

「少子化に関する調査2016（リクルートブライダル総研）」および
「恋愛・婚活・結婚調査2015（リクルートブライダル総研）」より算出

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

「出会いの欠如」解決による実際の子どもを持つ想定人数（既に意欲のある人）

リアリティのある想定人数を算出するために、シミュレーションを実施。
仮に「出会いの欠如」が解決された場合、結婚後1年でどのくらいの子どもを持てる人が創出されるのかをシミュレーションする。

（出会いの欠如を100%解決した場合）結婚するであろう人数 372万人
※P10より

×

広義の婚活成功率 10.3%
※P39より

＝

出会いの欠如を解決した場合、結婚するであろう人数（想定）
38.3万人

出会いの欠如を解決した場合、結婚するであろう人数（想定）
38.3万人

×

結婚から1人目出産までの期間が1年以内の割合 29.6%
※P40より

＝

「出会いの欠如」を解決した場合、
結婚後1年で子どもを持つであろう人の数（想定）

約11.3万人／年

※既に意欲のある人に限定した数値
※「出会いの欠如」解決からの年数ではない
※数値は四捨五入にて算出

「少子化に関する調査2016（リクルートブライダル総研）」
「恋愛・婚活・結婚調査2015（リクルートブライダル総研）」
「婚活実態調査2016（リクルートブライダル総研）」より算出

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

１－２．少子化課題の解決にむけたキーワード

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

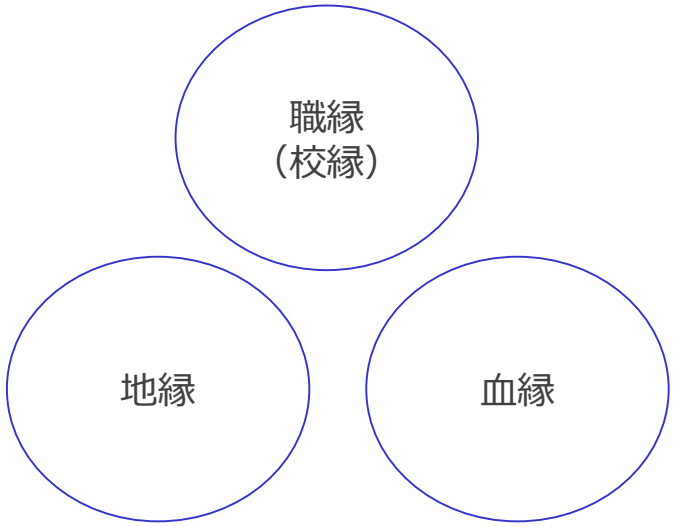
※詳細データはP41、42

KEY

第4のコミュニティの創出

これまでの出会い

所属コミュニティ内で「相手」がみつかる

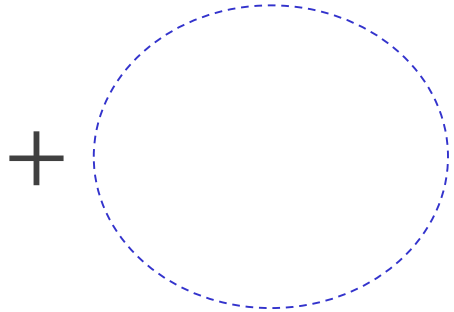


コミュニティ内恋愛の縮小

- ✓ 若者の既存コミュニティ調和志向
- ✓ リスクヘッジ志向

これからの出会い

（既存コミュニティに加え）
別コミュニティで「相手」をみつけていく



インターネット、SNS、婚活サービス、自治体イベントなど
既存コミュニティ以外で相手をみつける必要性がある

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

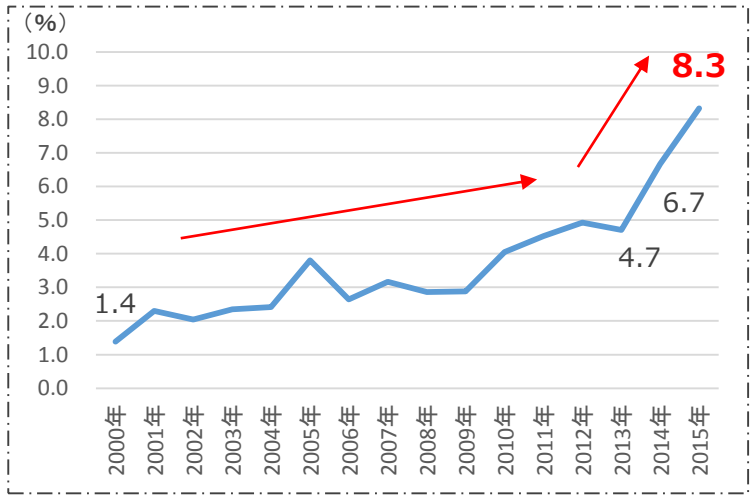
新たな出会いの場づくりの事例からみる今後の可能性（婚活サービス）

＜既存コミュニティ外での出会いの事例＞

婚活サービスで結婚できた割合
（婚姻年別／既婚者）

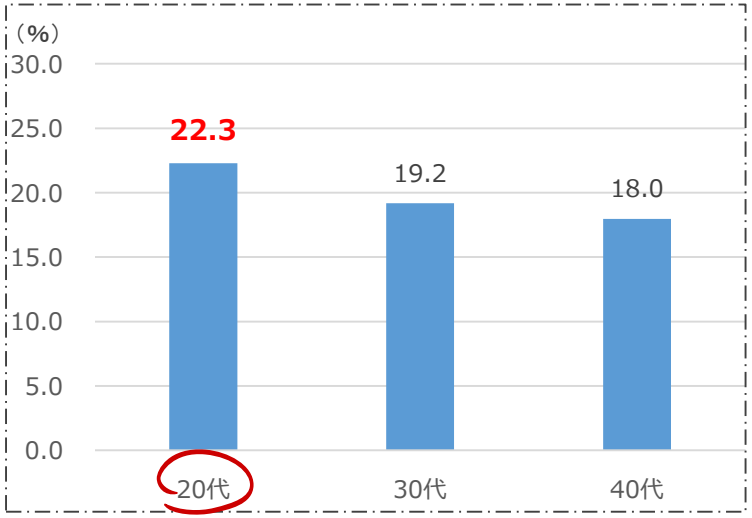
婚活サービスでの出会いが急増

※「結婚相談所」「婚活サイト・アプリ」「恋活サイト・アプリ」
「婚活パーティ・イベント」の4サービス



婚活サービスの利用率
（年代別／既婚者）

若年層の利用率が高い



若年層を中心に、既存コミュニティ外での出会いのポテンシャルが広がる

KEY

既存コミュニティの外に「出会いの場」を提供すれば「出会いの欠如」は解決の可能性が高まる

「婚活実態調査2016（リクルートブライダル総研）」より

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

少子化にはさまざまな課題があり、どの課題も解決に向けて対策を講じていくべきである。ただし、限られた資源の中で効果を最大化するためには、影響度の大きい課題を中心に優先度をつけて対策を打っていくべきであり、その観点では「希望や意欲はあるが実現できていない人」をメインターゲットとしながら課題を解決することが有意義だと考える。

今回、少子化課題を整理した結果、未婚者では「出会いの欠如」が、既婚者では「現状の子ども数に満足」「自信・覚悟の欠如」「自分の時間を優先」が大きな課題となった。特に「意欲のある人」という視点で言うと、解決すべき優先度の高い課題は「出会いの欠如」となる。
つまり、家庭づくりの最も川上である「恋愛領域」をいかに活性化するかが少子化課題解決にむけた重要な要素となることが確認できた事になる。
現状、未婚者への結婚支援の予算配分は、既婚者への少子化対策予算と比較すると少なく、「恋人がほしいができない」人への対策にもっと注力すべきであり、他の少子化対策とともに力を注ぐことで日本全体の活性化につながっていくと考える。

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

2－1．調査概要

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

調査概要① 少子化に関する調査（2016年10月実施）

■【一次調査】

【調査方法】 インターネットによるアンケート調査

【調査期間】 2016年9月20日（火）～2016年10月18日（火）

【調査対象】 全国の15～49歳の男女（未婚・既婚問わず）

【サンプル数】 20,000人（調査にて45,344人を回収し、その中から平成27年度国勢調査をもとに、未既婚（未婚・有配偶・離死別）×性別（男女）×年代（5歳刻み）42セルの人口構成比に合わせて20,000人を抽出した）

【設問数】 10問

■【二次調査】

【調査方法】 インターネットによるアンケート調査

【調査期間】 2016年9月24日（土）～2016年10月17日（月）

【調査対象】 【共通条件】全国の15～49歳の男女

【個別条件】
- ・恋愛意向の有無
- ・結婚意向の有無
- ・出産意向の有無

×

- ・現在の恋人有無
- ・現在の子ども有無（人数別：1人目・2人目・3人目）
- ・妊娠状況

×

- 性・年代
- 未既婚

にてサンプルを割付

【サンプル数】 有効回答数：7,987人（回収サンプル数：10,704人）

本調査では有効回答数7,987人に対して、実際の上記個別条件（恋愛・結婚・出産意向の有無・恋人の有無・子どもの有無・性別・年代）の人口構成比にできる限り近づけることを目的に、サンプルに重みづけをおこなった（ウェイトバック集計）

【設問数】 55問

◆人口構成比算出元データ
・平成27年総務省統計局国勢調査より

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

調査概要② 恋愛・婚活・結婚調査（2015年9月実施）

【調査方法】 インターネットによるアンケート調査

【調査期間】 2015年9月25日（金）～2015年9月28日（月）

【調査対象】 全国の20～69歳の男女（既婚者・独身者問わず）

【回収サンプル数】 5000人

本調査では、性・年代・未既婚別に定数にてサンプルを回収し、集計の際に実際の性・年代・未既婚別の人口構成に合わせるために、サンプルに重みづけをおこなった（ウェイトバック集計）

※既婚者とは、初婚者および再婚者も含む

※独身者とは、結婚経験がない独身者および離別、死別者（今は結婚していない）も含む

回収サンプル構成

		20代	30代	40代	50代	60代
既婚者	男性	250	250	250	250	250
	女性	250	250	250	250	250
独身者	男性	250	250	250	250	250
	女性	250	250	250	250	250

本調査対象者を抽出するためにおこなったスクリーニング調査に対して「平成27年総務省統計局人口推計」の「男女年代別人口」および「平成22年総務省統計局国勢調査」の「男女年代別未既婚率」を用いてウェイトバック補正をおこない、そのスクリーニング調査より算出した各セルの構成比をもとに、本調査対象者（5000サンプル）の補正をおこなった

ウェイトバック補正後のサンプル構成

		20代	30代	40代	50代	60代
既婚者	男性	67	279	398	365	455
	女性	90	316	422	380	432
独身者	男性	333	219	182	115	98
	女性	290	165	143	101	152

※ウェイトバックによる補正をおこなっているため、補正後サンプル数に小数点が発生していますが、四捨五入して整数表記をしています。そのため、サンプル数の合計と誤差が生じておりますが、ご了承ください。

◆人口構成比算出元データ
・平成27年総務省統計局人口推計より
・平成22年総務省統計局国勢調査より

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

調査概要③ 婚活実態調査（2016年3月実施）

■1次調査

【調査方法】 インターネットによるアンケート調査

【調査期間】 2016年3月19日（土）～2016年3月29日（火）

【調査対象】 全国の20～49歳の男女

【サンプル数】 50,000人（調査にて87,570人を回収し、その中から平成22年度国勢調査をもとに、未既婚×性別×年代（5歳刻み）24セルの人口構成比に合わせて50,000人を抽出した）

■2次調査

【調査方法】 インターネットによるアンケート調査

【調査期間】 2016年3月25日（金）～2016年3月29日（火）

【調査対象】 【共通条件】全国の20～49歳の男女で現在独身者 ※独身者とは、結婚経験のない未婚者および結婚経験のある（死別・離別の）現在未婚者
【個別条件】・婚活サービス利用者（現在利用者・過去利用者）：直近3年以内に婚活サービスを利用したことがある人
・婚活サービス非利用者：婚活サービスを利用したことがなく、「恋愛意向」もしくは「結婚意向」がある人

【サンプル数】 2,400人

本調査では、婚活サービス利用有無・性別・年代・未婚状況別に定数にてサンプルを回収し、集計の際に実際の婚活サービス利用有無（1次調査）、性別・年代・未婚状況別の人口構成（平成22年総務省統計局国勢調査）に合わせるために、サンプルに重みづけをおこなった（ウェイトバック集計）

ウェイトバックに使用した補正値は、1次調査データを用いて各セルの出現率をもとに算出した

回収サンプル構成

			結婚経験なし・子なし	結婚経験あり（死別・離別）・子あり	結婚経験あり（死別・離別）・子なし
利用者	男性	20代	100	100	100
		30代	100		
		40代	100		
	女性	20代	100		
		30代	100		
		40代	100		
非利用者	男性	20代	100	250	250
		30代	100		
		40代	100		
	女性	20代	100	250	250
		30代	100		
		40代	100		

ウェイトバック補正後のサンプル構成

			結婚経験なし・子なし	結婚経験あり（死別・離別）・子あり	結婚経験あり（死別・離別）・子なし
利用者	男性	20代	44	9	6
		30代	33		
		40代	8		
	女性	20代	62		
		30代	36		
		40代	6		
非利用者	男性	20代	534	38	46
		30代	372		
		40代	220		
	女性	20代	476	100	47
		30代	224		
		40代	138		

※ウェイトバックによる補正をおこなっているため、補正後サンプル数に小数点が発生していますが、四捨五入して整数表記をしています。そのため、サンプル数の合計と誤差が生じておりますが、ご了承ください。

◆人口構成比算出元データ
・平成22年総務省統計局国勢調査より

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

2－2．参考資料（appendix）

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

「したい」の実現確率①

■恋人がほしい人のうち、「恋人がいる状態」への実現確率

	N	①のうちの割合
① 恋人がいない状態のときに、「恋人がほしい」と思っていた・思っている人	4710	-
② 【過去当時】未婚者・現在恋人がいて、現在の恋人と付き合う前に「恋人がほしい」と思っていた人	1391	**29.5%**
③ 【現在】未婚者・現在恋人がおらず、「恋人がほしい」と思っている人	3319	70.5%

※①は②と③の合計

⇒【実現確率】「恋人いる状態」

※意欲がある人（表①）のうち、実際にその状態を実現した人の割合（表②）（「実現した人/意欲がある人」の割合）

■結婚したい人のうち、「結婚する状態」への実現確率

	N	①のうちの割合
① 恋人がいて結婚をしていない状態のときに、「結婚したい」と思っていた・思っている人	3262	-
② 【過去当時】既婚者で現在の結婚をする前に、当時付き合っていた今の配偶者と「結婚したい」と思っていた人	1921	**58.9%**
③ 【現在】未婚者・現在恋人がいて、「結婚したい」と思っている人	1341	41.1%

※①は②と③の合計

⇒【実現確率】「結婚する状態」

※意欲がある人（表①）のうち、実際にその状態を実現した人の割合（表②）（「実現した人/意欲がある人」の割合）

「少子化に関する調査2016（リクルートブライダル総研）」より算出

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

「したい」の実現確率②

■子どもがほしい人のうち、「子ども1人目いる状態」への実現確率

		N	①のうちの割合
①	1人目の子どもがいない状態のときに、「子どもがほしい」と思っていた・思っている人	3176	-
②	【過去当時】既婚者で現在子どもが1人いて、その子どもを妊娠する前に「子どもがほしい」と思っていた人	2061	**64.9%**
③	【現在】既婚者で現在子どもがおらず、「子どもがほしい」と思っている人	1115	35.1%

※①は②と③の合計

⇒【実現確率】「子ども1人目いる状態」

※意欲がある人（表①）のうち、実際にその状態を実現した人の割合（表②）（「実現した人/意欲がある人」の割合）

■子ども2人目がほしい人のうち、「子ども2人目いる状態」への実現確率

		N	①のうちの割合
①	2人目の子どもがいない状態のときに、「2人目の子どもがほしい」と思っていた・思っている人	4036	-
②	【過去当時】既婚者で現在子どもが2人いて、2人目の子どもを妊娠する前に「2人目の子どもがほしい」と思っていた人	2856	**70.8%**
③	【現在】既婚者で現在子どもが1人で、「2人目の子どもがほしい」と思っている人	1180	29.2%

※①は②と③の合計

⇒【実現確率】「子ども2人目いる状態」

※意欲がある人（表①）のうち、実際にその状態を実現した人の割合（表②）（「実現した人/意欲がある人」の割合）

■子ども3人目がほしい人のうち、「子ども3人目いる状態」への実現確率

		N	①のうちの割合
①	3人目の子どもがいない状態のときに、「3人目の子どもがほしい」と思っていた・思っている人	1171	-
②	【過去当時】既婚者で現在子どもが3人いて、3人目の子どもを妊娠する前に「3人目の子どもがほしい」と思っていた人	595	**50.8%**
③	【現在】既婚者で現在子どもが2人で、「3人目の子どもがほしい」と思っている人	576	49.2%

※①は②と③の合計

⇒【実現確率】「子ども3人目いる状態」

※意欲がある人（表①）のうち、実際にその状態を実現した人の割合（表②）（「実現した人/意欲がある人」の割合）

「少子化に関する調査2016（リクルートブライダル総研）」より算出

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

意欲向上確率（恋人ほしい）

※回答者：「未婚者・現在恋人がいない」かつ、「今の気持ちとして：（今後も）恋人はほしくない（どちらともいえないを含む）」と回答した人

	N= 2176
何があっても恋人がほしいとは思わない	27.2%
安定した収入が得られたら	16.7%
ある程度お金が貯まったら	10.8%
自由に使える時間が増えたら	9.8%
仕事と私生活のバランスがうまく取れるようになったら	8.6%
一人前の仕事が出来るようになったら	6.5%
自分が適切な年齢になったら・だったら	1.3%
人間的・精神的に一人前になったら	11.6%
親など家族から強く望まれたら	1.9%
出会いの機会が提供されるのであれば	5.1%
異性に対して声のかけ方がわかったら	2.4%
恋人関係になるための方法がわかったら	2.0%
好きな人ができたら	29.4%
安定した仕事につけたら	11.4%
うまく付き合っていく（交際していく）方法がわかったら・知ったら	7.4%
人とうまくコミュニケーションが取れるようになったら	11.6%
自分の魅力に自信を持てるようになったら	9.0%
友人から付き合うことを勧められたら	0.8%
周りの友人の多くが結婚したり、恋人ができたら	0.6%
兄弟・姉妹や親戚の多くが結婚したり、恋人ができたら	0.4%
その他	3.6%

【意欲向上確率】

⇒ **100%－27.2%＝72.8%**

※意欲がない人（どちらともいえないを含む）のうち、何かしらの対策（対応）で意欲が上がる人の割合（「100%-何があっても動かない人」の割合）

「少子化に関する調査2016（リクルートブライダル総研）」より算出

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

意欲向上確率（結婚したい）

※回答者：「未婚者・現在恋人がいる」かつ、「今の気持ちとして：（今後も）結婚はしたくない（どちらともいえないを含む）」と回答した人

	N= 515
何があっても結婚したいとは思わない	18.3%
安定した収入が得られたら	18.8%
ある程度お金が貯まったら	13.6%
自由に使える時間が増えたら	8.0%
仕事と私生活のバランスがうまく取れるようになったら	10.9%
一人前の仕事が出来るようになったら	9.1%
自分が適切な年齢になったら・だったら	4.3%
人間的・精神的に一人前になったら	13.8%
親など家族から強く望まれたら	3.5%
自分もしくは相手が安定した仕事につけたら	7.2%
出産する覚悟・自信ができたら	4.7%
子育てする覚悟・自信ができたら	6.2%
配偶者の家事や育児への参加・協力があるなら	2.5%
広い交友関係を保てるなら	1.6%
社会との接点を保てるなら	2.3%
必要性やメリットがわかったら	18.3%
勤務先の支援が得られるなら	1.6%
結婚したい相手が見つかるなら	11.3%
この人と一緒にやっていく覚悟・自信ができたら	19.2%
友人から結婚を勧められたら	0.4%
周りの友人の多くが結婚したり、出産したら	1.0%
兄弟・姉妹や親戚の多くが結婚したり、出産したら	0.6%
結婚生活をうまく過ごす方法がわかったら・知ったら	10.9%
その他	3.7%

⇒ **【意欲向上確率】**

100%－18.3%＝81.7%

※意欲がない人（どちらともいえないを含む）のうち、何かしらの対策（対応）で意欲が上がる人の割合（「100%-何があっても動かない人」の割合）

「少子化に関する調査2016（リクルートブライダル総研）」より算出

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

意欲向上確率（子どもほしい）

※回答者：「既婚者・現在子どもがいない」かつ、「今の気持ちとして：（今後も）子どもはほしくない（どちらともいえないを含む）」と回答した人

	N= 1446
何があっても子どもがほしいとは思わない	34.9%
安定した収入が得られたら	13.5%
ある程度お金が貯まったら	7.4%
自由に使える時間が増えたら	3.8%
仕事と私生活のバランスがうまく取れるようになったら	5.5%
一人前の仕事ができるようになったら	2.4%
自分が適切な年齢になったら・だったら	4.6%
人間的・精神的に一人前になったら	5.9%
親など家族から強く望まれたら	1.0%
自分もしくは相手が安定した仕事につけたら	3.6%
出産する覚悟・自信ができたら	9.0%
子育てする覚悟・自信ができたら	11.5%
配偶者の家事や育児への参加・協力があるなら	4.1%
育児に関わる費用が明確に分かったら	2.1%
出産に関わる費用が明確に分かったら	1.4%
出産・育児に関する知識を得ることができたら	1.3%
不妊治療に対する知識を得ることができたら	2.2%
子どもを持つ意味が分かったら	4.7%
親・親族のサポートを得られる環境になったら	1.6%
親・親族以外のサポートを得られる環境になったら	1.6%
世の中の風潮として、妊婦に対する理解や優しい雰囲気になったら	2.1%
職場の上司や同僚に出産に対する理解があったら	1.4%
育児休暇など、出産に関する制度がある・取りやすいなら	2.5%
友人から出産（子どもを持つこと）を勧められたら	0.2%
自分の周囲の多くが結婚したり、出産したら	1.0%
子どもができてしまったら	9.5%
保育園への心配がないなど、社会的制度が整っていたら	3.5%
給付金や税制上の優遇措置など、金銭的制度が整っていたら	4.1%
世の中の風潮として、子育てのしやすい・やさしい雰囲気になったら	3.7%
その他	8.1%

⇒ **【意欲向上確率】**

100%－34.9%＝65.1%

※意欲がない人（どちらともいえないを含む）のうち、何かしらの対策（対応）で意欲が上がる人の割合（「100%-何があっても動かない人」の割合）

「少子化に関する調査2016（リクルートブライダル総研）」より算出

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

意欲向上確率（2人目の子どもほしい）

※回答者：「既婚者・現在子ども1人」かつ、「今の気持ちとして：（今後も）2人目の子どもはほしくない（どちらともいえないを含む）」と回答した人

	N= 1349
何があっても子どもがほしいとは思わない	17.3%
安定した収入が得られたら	16.9%
ある程度お金が貯まったら	11.1%
自由に使える時間が増えたら	7.3%
仕事と私生活のバランスがうまく取れるようになったら	7.8%
一人前の仕事ができるようになったら	2.0%
自分が適切な年齢になったら・だったら	11.2%
人間的・精神的に一人前になったら	5.2%
親など家族から強く望まれたら	1.8%
自分もしくは相手が安定した仕事につけたら	3.0%
出産する覚悟・自信ができたら	8.2%
子育てする覚悟・自信ができたら	10.2%
配偶者の家事や育児への参加・協力があるなら	9.3%
育児に関わる費用が明確に分かったら	4.2%
出産に関わる費用が明確に分かったら	2.4%
出産・育児に関する知識を得ることができたら	1.2%
不妊治療に対する知識を得ることができたら	1.5%
子どもを持つ意味が分かったら	3.8%
親・親族のサポートを得られる環境になったら	4.1%
親・親族以外のサポートを得られる環境になったら	3.4%
世の中の風潮として、妊婦に対する理解や優しい雰囲気になったら	2.1%
職場の上司や同僚に出産に対する理解があったら	1.6%
育児休暇など、出産に関する制度がある・取りやすいなら	4.4%
友人から出産（子どもを持つこと）を勧められたら	0.9%
自分の周囲の多くが結婚したり、出産したら	1.0%
子どもができてしまったら	7.5%
保育園への心配がないなど、社会的制度が整っていたら	8.7%
給付金や税制上の優遇措置など、金銭的制度が整っていたら	8.7%
世の中の風潮として、子育てのしやすい・やさしい雰囲気になったら	5.6%
その他	9.0%

⇒ **【意欲向上確率】**

100%－17.3%＝82.7%

※意欲がない人（どちらともいえないを含む）のうち、何かしらの対策（対応）で意欲が上がる人の割合（「100%-何があっても動かない人」の割合）

「少子化に関する調査2016（リクルートブライダル総研）」より算出

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

意欲向上確率（3人目の子どもほしい）

※回答者：「既婚者・現在子ども2人」かつ、「今の気持ちとして：（今後も）3人目の子どもはほしくない（どちらともいえないを含む）」と回答した人

	N= 2804
何があっても子どもがほしいとは思わない	14.9%
安定した収入が得られたら	20.7%
ある程度お金が貯まったら	13.8%
自由に使える時間が増えたら	6.6%
仕事と私生活のバランスがうまく取れるようになったら	6.6%
一人前の仕事ができるようになったら	2.2%
自分が適切な年齢になったら・だったら	11.4%
人間的・精神的に一人前になったら	2.8%
親など家族から強く望まれたら	1.8%
自分もしくは相手が安定した仕事につけたら	3.5%
出産する覚悟・自信ができたら	5.4%
子育てする覚悟・自信ができたら	8.8%
配偶者の家事や育児への参加・協力があるなら	9.8%
育児に関わる費用が明確に分かったら	4.7%
出産に関わる費用が明確に分かったら	2.1%
出産・育児に関する知識を得ることができたら	1.4%
不妊治療に対する知識を得ることができたら	0.3%
子どもを持つ意味が分かったら	3.0%
親・親族のサポートを得られる環境になったら	4.0%
親・親族以外のサポートを得られる環境になったら	3.6%
世の中の風潮として、妊婦に対する理解や優しい雰囲気になったら	1.5%
職場の上司や同僚に出産に対する理解があったら	1.4%
育児休暇など、出産に関する制度がある・取りやすいなら	3.7%
友人から出産（子どもを持つこと）を勧められたら	0.5%
自分の周囲の多くが結婚したり、出産したら	0.9%
子どもができてしまったら	8.3%
保育園への心配がないなど、社会的制度が整っていたら	7.1%
給付金や税制上の優遇措置など、金銭的制度が整っていたら	13.6%
世の中の風潮として、子育てのしやすい・やさしい雰囲気になったら	5.6%
その他	9.3%

【意欲向上確率】

⇒ **100%－14.9%＝85.1%**

※意欲がない人（どちらともいえないを含む）のうち、何かしらの対策（対応）で意欲が上がる人の割合（「100%-何があっても動かない人」の割合）

「少子化に関する調査2016（リクルートブライダル総研）」より算出

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

恋愛領域の課題（恋愛意欲がない理由・恋人ができないと思う理由より）

「恋人がほしくない理由」と「恋人ができないと思う理由」から、【恋愛領域】の課題を導出。大きく分類すると、「経済的問題」「自分時間優先」「知識・経験的問題」「自信・覚悟の欠如」「意義の欠如」「出会いの欠如」など6種の課題が導出される

意欲が向上されない理由

恋人がほしくない理由

※回答者：「未婚者・現在恋人なし」で、「（今後も）恋人はほしくない（どちらともいえないを含む）」と回答した人

	現在 恋人なし 恋人 ほしくない		
n数=	110		
お金がかかるから	31.4	⇒	経済的問題
1人の方が気楽だから	62.4	⇒	自分時間優先（時間的制約）
時間を奪われるから	37.6		
恋人より自分の趣味に力を入れたいから	30.4		
相手を思いやる余裕がないから	19.4		
恋人より仕事や勉強に力を入れたいから	15.2		
多数の異性と関係を持ちたいから	3.2		
離婚・死別を経験しているから	0.0	⇒	知識・経験的問題
フラれたり、別れるなどして傷つきたくないから	15.1	⇒	自信・覚悟の欠如
異性と交際するのが怖いから	11.3		
恋愛が面倒だから	58.4	⇒	意義の欠如
異性に興味がないから	15.3		
好きな人がいないから	27.8	⇒	出会いの欠如
その他	6.0		
特に理由はない	15.4		

意欲があっても実現できないと考える理由

恋人ができないと思う理由

※回答者：「未婚者・現在恋人なし」で、「（いずれは）恋人はほしい」と回答した人

	現在 恋人なし 恋人 ほしい		
n数=	551		
経済的な問題があるから	23.0	⇒	経済的問題
どうしたら恋人になれるのかわからないから	26.9	⇒	知識・経験的問題
どのように声をかけてよいのかわからないから	26.9		
恋愛交際の進め方がわからないから	20.7		
離婚・死別を経験しているから	0.0		
異性に対する魅力に自信がないから	34.1	⇒	自信・覚悟の欠如
コミュニケーション力に問題があるから	30.0		
容姿が劣っているから	24.8		
性格に問題があるから	22.1		
そもそも恋人は欲しくない（作ろうとしていない）	6.7	⇒	意義の欠如
出会いがないから	50.2	⇒	出会いの欠如
異性との出会いの場所がわからないから	37.1		
今は好きな人がいないから	25.5		
その他	3.2		
特に理由はない	6.7		

※表示されているn数はウェイトバック補正後のn数であり、実際の調査回収サンプル数とは異なります

「恋愛・婚活・結婚調査2015（リクルートブライダル総研）」より

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

結婚領域の課題（結婚意欲がない理由・結婚できないと思う理由より）

「結婚したくない理由」と「結婚できないと思う理由」から、【結婚領域】の課題を導出。大きく分類すると、恋愛領域に加え、「体調の不備」「家庭環境不備」が加わり全部で8種の課題が導出される

意欲が向上されない理由

結婚したくない理由

※回答者：「未婚者・現在恋人あり」で、「（今後も）結婚はしたくない（どちらともいえないを含む）」と回答した人

	現在恋人あり 結婚したくない		
n数=	34		
金銭的に余裕がなくなるから	30.1	⇒	経済的問題
家族扶養の責任が負担だから	15.6		
行動や生き方が制限されるから	46.3	⇒	自分時間優先（時間的制約）
自由さや気楽さを失いたくないから	40.3		
自由に趣味や娯楽を楽しみたいから	30.3		
異性との交際の自由がなくなるから	16.9		
仕事に打ち込めなくなるから	2.2		
広い友人関係が保てなくなるから	2.1		
社会との接点が保てなくなるから	0.0		
離婚・死別を経験しているから	0.0	⇒	知識・経験的問題
必要性を感じないから	37.8	⇒	意義の欠如
メリットを感じないから	29.5		
子どもや家庭を持ちたくないから	18.2		
住環境の選択幅が狭くなるから	6.4	⇒	家庭環境不備
現在の家族との関係が保てなくなるから	4.1		
その他	2.1		
特に理由はない	12.5		

意欲があっても実現できないと考える理由

結婚できないと思う理由

※回答者：「未婚者・現在恋人あり」で、「（いずれは）結婚したい」かつ、「将来結婚できない（どちらともいえないを含む）」と回答した人

	現在恋人あり 結婚したい		
n数=	97		
経済的に問題があるから	41.3	⇒	経済的問題
1人のほうが気楽だから	33.2	⇒	自分時間優先（時間的制約）
職業や仕事上における自分の問題で	5.1		
不特定多数の異性と関係をもちたいから	1.1		
離婚・死別を経験しているから	0.0	⇒	知識・経験的問題
容姿が劣っているから	45.6	⇒	自信・覚悟の欠如
性格に問題があるから	44.9		
コミュニケーション力に問題があるから	41.1		
異性とうまく付き合えないから	30.9		
自分に結婚しようという覚悟がないから	18.4		
そもそも結婚したいと思っていない	0.7	⇒	意義の欠如
結婚適齢期を過ぎているから	27.3	⇒	体調の不備
健康上の問題で	8.8		
住居のめどが立たないから	6.2	⇒	家庭環境不備
親を介護しているから	2.6		
親や周囲が同意しないから	0.0		
子どもが反対している・望んでいないから	0.0		
出会いがないから	58.7	⇒	出会いの欠如
理想の異性がいないから	25.0		
結婚相手への理想が高いから	17.8		
結婚相手に対して譲れないポイントがあるから	10.0		
結婚したい相手と別れてしまったから	4.8		
相手の結婚したいタイミングを逃したから	3.0		
その他	2.5		
特に理由はない	3.0		

※表示されているn数はウェイトバック補正後のn数であり、実際の調査回収サンプル数とは異なります

「恋愛・婚活・結婚調査2015（リクルートブライダル総研）」より

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

出産領域の課題（出産意欲がない理由より）

「（次の）子どもがほしくない理由」から【出産領域】の課題を導出。大きく分類すると結婚領域に「社会的環境不備」「現状の子ども数満足」が加わり「出会いの欠如」がなくなり、全部で10種の課題が導出される。

意欲が向上されない理由

（次の）子どもがほしくない理由／子どもの人数別

※回答者：「既婚者」で、「（今後も）次の子どもがほしくない（どちらともいえないを含む）」と回答した人

	現在子ども0人 1人目ほしくない	現在子ども1人 2人目ほしくない	現在子ども2人 3人目ほしくない		
n数=	354	371	590		
子育てや教育にお金がかかるから	21.2	19.9	19.9	⇒	経済的問題
雇用が安定しないから	9.8	7.1	3.4		
できる仕事の種類に制約を受けるから	6.4	3.0	1.7		
子どもの健康への負担（医療費の負担など）が気になるから	4.4	1.8	2.3		
自分の昇進・昇格に差し障るから	2.1	0.5	0.6		
自分の時間を大切にしたいから	25.7	11.4	10.5	⇒	自分時間優先（時間的制約）
夫婦2人の時間を大切にしたいから	19.8	6.4	3.6		
仕事と私生活のバランスがうまく取れなくなるから	12.2	5.3	4.9		
働ける時間が限られてしまうから	8.0	6.9	4.8		
出産に関わる費用が明確にわからないから	3.7	1.4	1.1	⇒	知識・経験的問題
育児に関わる費用が明確にわからないから	2.9	4.6	2.6		
出産に関する知識を得ることができないから	1.3	0.6	1.0		
不妊治療に対する知識を得ることができないから	1.3	0.6	0.6		
育児に関する知識を得ることができないから	0.8	1.4	1.3		
1人目（や2人目）の育児・子育てがあまりうまくいかなかったから	0.0	4.9	4.2		
子育てする覚悟・自信がないから	29.9	12.0	9.1	⇒	自信・覚悟の欠如
出産する覚悟・自信がないから	22.8	8.9	3.4		
自分または配偶者が育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから	14.7	7.3	6.0		
妊娠・出産のときの身体的・精神的な苦痛があるから	10.2	7.1	3.0		
将来、離婚したくても難しくなるから	4.4	3.6	1.8		
「子育て」をするイメージが湧かない・わからないから	19.0	5.2	4.8	⇒	意義の欠如

	現在子ども0人 1人目ほしくない	現在子ども1人 2人目ほしくない	現在子ども2人 3人目ほしくない		
n数=	354	371	590		
健康上の問題があるから	16.3	6.8	3.3	⇒	体調の不備
自分が適切な年齢ではないから	15.6	13.6	12.6		
配偶者が望まないから	10.3	5.0	3.4	⇒	家庭環境不備
出産した友人・知人の状況をみたから	5.0	1.3	0.6		
親・親族のサポートが期待できないから	4.4	4.5	3.8		
配偶者の家事・育児への参加・協力が得られないから	3.8	3.9	3.4		
近所など親・親族以外のサポートが期待できないから	3.7	3.3	2.2		
家が狭いから	2.7	4.4	7.2		
親など家族から強く望まれないから	1.7	0.9	1.4		
相談できる相手がいないから	1.7	1.9	2.0		
周りの友人の多くがまだ結婚していない、出産していないから	1.6	0.7	1.3		
兄弟・姉妹や親戚の多くが結婚していない、出産していないから	0.9	0.8	0.8		
世の中の風潮として、子育てのしやすい・やさしい雰囲気ではないから	9.8	5.4	4.5	⇒	社会的環境不備
子どもがのびのび育つ社会環境でないから	7.9	5.0	3.1		
給付金や税制上の優遇措置など、金銭的制度が整っていないから	4.2	5.5	5.5		
保育園など保育サービスが整っていないから	3.9	5.5	3.8		
世の中の風潮として、妊婦に対する理解や優しい雰囲気ではないから	3.8	3.5	0.7		
育児休暇など、（自分または配偶者の）出産に関する制度がない・取りにくいから	3.5	2.5	2.5	⇒	職場環境不備
職場の上司や同僚に育児をしながらの働き方に対する理解が無いから	2.9	1.3	1.4		
職場の上司や同僚に妊娠時の働き方に対する理解が無いから	0.8	1.0	1.0		
職場の上司や同僚に出産に対する理解がないから	0.5	0.2	1.1		
子どもは一人で（二人で）十分だから	0.0	30.1	31.9	⇒	現状の子ども数満足
その他	11.3	9.1	10.1		

※表示されているn数はウェイトバック補正後のn数であり、実際の調査回収サンプル数とは異なります

「少子化に関する調査2016（リクルートブライダル総研）」より

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

出産領域の課題（出産できないと思う理由より）

「（次の）子どもができない理由」から【出産領域】の課題を導出。前頁と同様に全部で10種の課題が導出される。

意欲があっても実現できないと考える理由

（次の）子どもができないと思う理由／子どもの人数別

※回答者：「既婚者」で、「（いずれは）次の子どもがほしい」かつ、「今後、次の子どもを持つことができないと思う（どちらともいえないを含む）」と回答した人

	現在子ども0人 今後、子どもを持つことができないと思う	現在子ども1人 今後、2人目の子どもを持つことができないと思う	現在子ども2人 今後、3人目の子どもを持つことができないと思う		
n数=	155	149	103		
子育てや教育にお金がかかるから	6.6	15.6	14.4	⇒	経済的問題
雇用が安定しないから	4.5	5.7	4.6		
できる仕事の種類に制約を受けるから	1.5	1.1	1.5		
子どもの健康への負担（医療費の負担など）が気になるから	1.3	2.0	1.6		
自分の昇進・昇格に差し障るから	0.0	0.8	0.0		
仕事と私生活のバランスがうまく取れなくなるから	6.2	3.6	3.2	⇒	自分時間優先（時間的制約）
働ける時間が限られてしまうから	5.0	2.6	3.3		
夫婦2人の時間を大切にしたいから	4.0	2.0	2.8		
自分の時間を大切にしたいから	3.3	2.5	3.8		
育児に関わる費用が明確にわからないから	5.5	0.8	2.4	⇒	知識・経験的問題
不妊治療に対する知識を得ることができないから	3.2	2.2	1.1		
出産に関わる費用が明確にわからないから	2.8	0.0	1.4		
育児に関する知識を得ることができないから	1.8	0.7	0.9		
出産に関する知識を得ることができないから	0.9	1.6	1.9		
1人目（や2人目）の育児・子育てがあまりうまくいかなかったから	0.0	1.6	1.2		
子育てする覚悟・自信がないから	6.7	7.5	5.1	⇒	自信・覚悟の欠如
出産する覚悟・自信がないから	5.4	3.9	2.1		
妊娠・出産のときの身体的・精神的な苦痛があるから	3.5	2.9	0.0		
自分または配偶者が育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから	1.9	2.8	1.9		
将来、離婚したくても難しくなるから	1.7	0.9	1.1		
「子育て」をするイメージが湧かない・わからないから	4.7	3.2	1.9	⇒	意義の欠如

	現在子ども0人 今後、子どもを持つことができないと思う	現在子ども1人 今後、2人目の子どもを持つことができないと思う	現在子ども2人 今後、3人目の子どもを持つことができないと思う		
n数=	155	149	103		
自分が子どもができにくい／つくりにくい体調・身体だから	31.5	24.5	11.3	⇒	体調の不備
配偶者が子どもができにくい／つくりにくい体調・身体だから	23.3	14.5	8.0		
自分が適切な年齢ではないから	17.0	8.9	12.1		
健康上の問題があるから	6.1	4.7	5.7		
配偶者が望まないから	9.0	6.6	14.5	⇒	家庭環境不備
親・親族のサポートが期待できないから	1.7	2.7	3.7		
家が狭いから	1.6	4.3	3.8		
近所など親・親族以外のサポートが期待できないから	1.6	1.5	1.9		
相談できる相手がいないから	1.6	2.6	0.8		
配偶者の家事・育児への参加・協力が得られないから	1.6	3.3	2.9		
出産した友人・知人の状況をみたから	0.9	0.7	0.9		
親など家族から強く望まれないから	0.6	0.9	0.4		
周りの友人の多くがまだ結婚していない、出産していないから	0.5	1.6	0.5		
兄弟・姉妹や親戚の多くが結婚していない、出産していないから	0.0	0.3	0.0		
給付金や税制上の優遇措置など、金銭的制度が整っていないから	2.9	2.3	8.2	⇒	社会的環境不備
子どもがのびのび育つ社会環境でないから	1.5	1.1	0.5		
世の中の風潮として、妊婦に対する理解や優しい雰囲気ではないから	1.1	2.0	1.9		
世の中の風潮として、子育てのしやすい・やさしい雰囲気ではないから	1.0	2.1	1.3		
保育園など保育サービスが整っていないから	0.8	3.7	2.5		
育児休暇など、（自分または配偶者の）出産に関する制度がない・取りにくいから	2.7	1.7	3.9	⇒	職場環境不備
職場の上司や同僚に妊娠時の働き方に対する理解が無いから	1.7	0.7	2.4		
職場の上司や同僚に出産に対する理解がないから	1.0	0.9	1.8		
職場の上司や同僚に育児をしながらの働き方に対する理解が無いから	0.5	1.4	3.0		
子どもは一人で（二人で）十分だから	0.0	2.2	9.8	⇒	現状の子ども数満足
その他	12.3	11.3	12.7		

※表示されているn数はウェイトバック補正後のn数であり、実際の調査回収サンプル数とは異なります

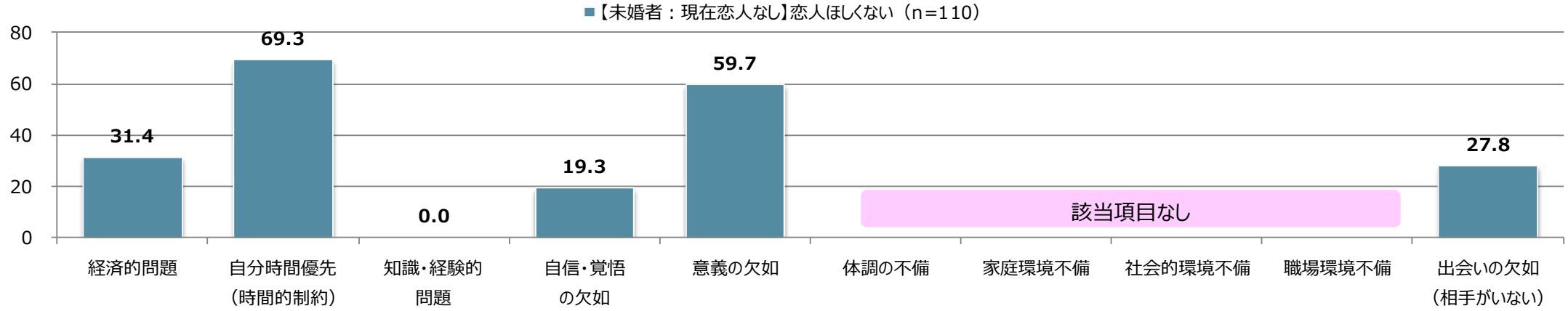
「少子化に関する調査2016（リクルートブライダル総研）」より

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

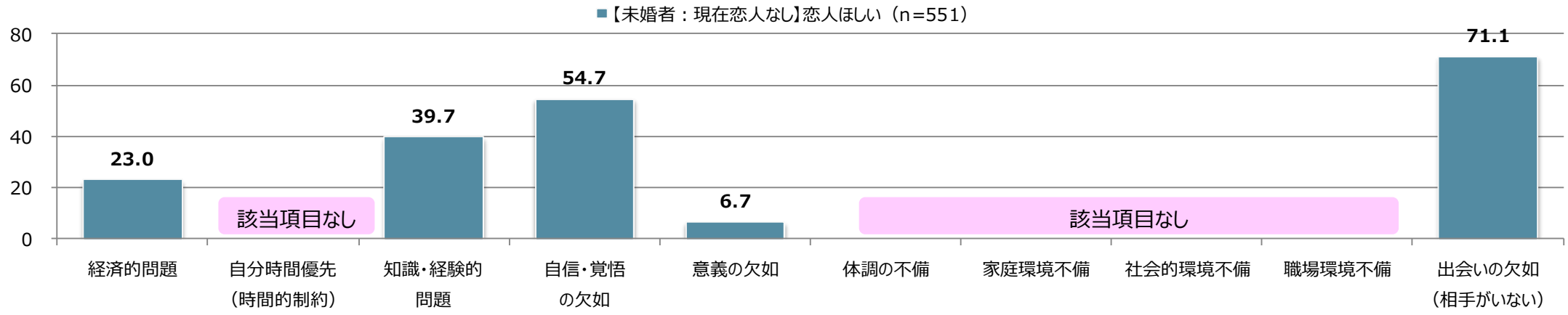
「意欲」と「『したい』の実現」の課題比較（恋愛領域）～ステップ１～

前述で抽出した課題を整理して再集計し、「意欲向上」「『したい』の実現」ごとに比較した。
「意欲向上」においては「自分時間優先」「意義の欠如」が、「『したい』の実現」においては「出会いの欠如」「自信・覚悟の欠如」が大きな課題となる。

意欲向上



（意欲ある人の）「したい」の実現



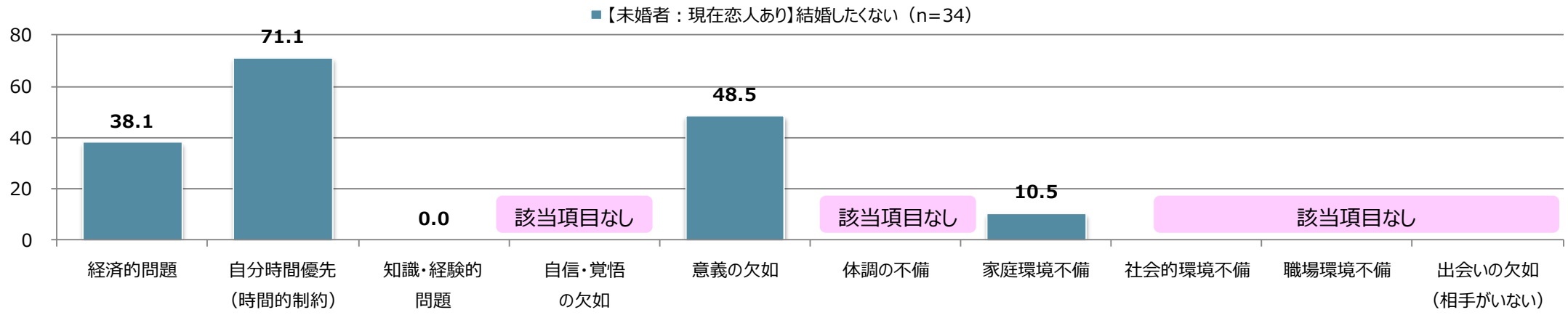
※表示されているn数はウェイトバック補正後のn数であり、実際の調査回収サンプル数とは異なります
※質問はマルチアンサー形式（複数回答）のため、複数の課題を選択されている方もいます
※項目は、結婚、出産領域と合わせています
「恋愛・婚活・結婚調査2015（リクルートブライダル総研）」より

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

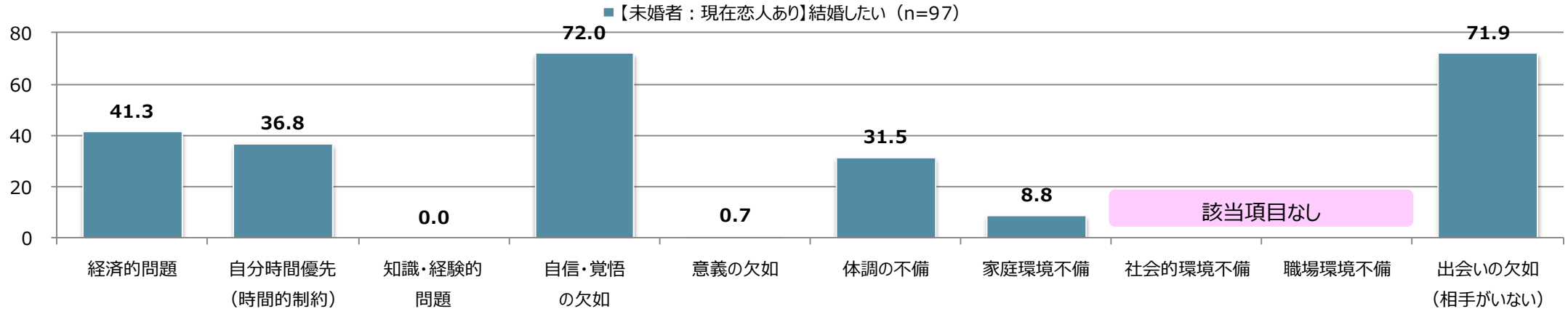
「意欲」と「『したい』の実現」の課題比較（結婚領域）　～ステップ１～

前述で抽出した課題を整理して再集計し、「意欲向上」「『したい』の実現」ごとに比較した。
恋愛時に導出された課題に加え、「経済的問題」が導出される。

意欲向上



（意欲ある人の）「したい」の実現



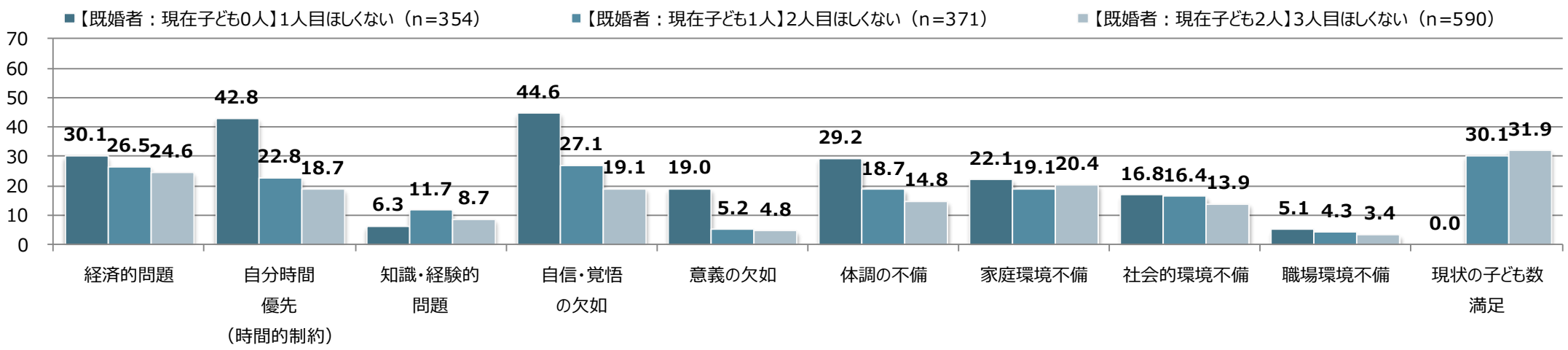
※表示されているn数はウェイトバック補正後のn数であり、実際の調査回収サンプル数とは異なります
※質問はマルチアンサー形式（複数回答）のため、複数の課題を選択されている方もいます
※項目は、結婚、出産領域と合わせています
「恋愛・婚活・結婚調査2015（リクルートブライダル総研）」より

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

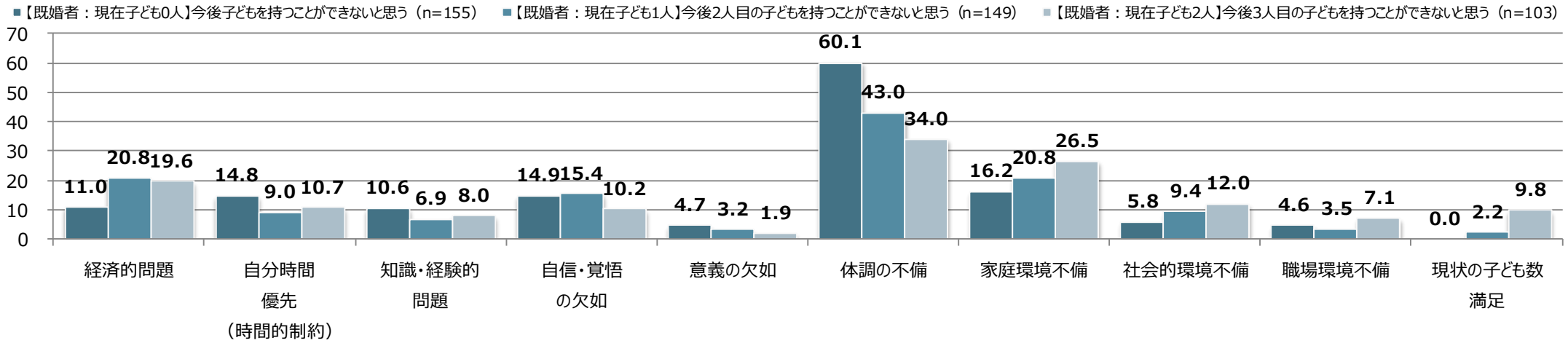
「意欲」と「『したい』の実現」の課題比較（出産領域）　～ステップ１～

前述で抽出した課題を整理して再集計し、「意欲向上」「『したい』の実現」ごとに比較した。
「意欲向上」においては「自分時間優先」「自信・覚悟の欠如」が、「『したい』の実現」においては「体調の不備」が大きな課題となる。

意欲向上



（意欲ある人の）「したい」の実現



※表示されているn数はウェイトバック補正後のn数であり、実際の調査回収サンプル数とは異なります
※質問はマルチアンサー形式（複数回答）のため、複数の課題を選択されている方もいます
「少子化に関する調査2016（リクルートブライダル総研）」より

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

仮に完全に課題が解決されることによって子どもを持つであろう人の数をシミュレーション。課題解決の効果をはかる。

未婚者への効果

【課題解決による効果の内容】

未婚者に対して「解決すべき課題」それぞれが解決された場合の以下①～③の効果を算出

① **「恋人がいない人」から「恋人がいる人」になった数**

② **①の「恋人がいる人」から「既婚者になった人（結婚するであろう人）」の数**

③ **②の「既婚者になった人」のうち、「子ども1～3人目を持つであろう人」の数（延べ数）**

【効果算出の考え方】

課題解決による効果を算出する際、以下の2パターンに分けて、結果「したい」の実現ができた人（子どもを持つであろう人）の数を算出した

①**【意欲向上への効果】** 恋愛・結婚意欲がない人のうち、各課題の解決によって意欲が高まる人の数を算出し、その中からさらに「したい」が実現できた人の数を算出
「したい」の実現によって「1人目の子どもを持つであろう人」「2人目の子どもを持つであろう人」「3人目の子どもを持つであろう人」の数を算出し、効果とする

（恋愛・結婚）意欲がない人（人）　×　（恋愛・結婚）課題を理由に意欲がない人の割合（%）　＝　（恋愛・結婚）課題解決によって意欲が高まる人（人）
（恋愛・結婚）課題解決によって意欲が高まる人（人）　×　（恋愛・結婚）実現確率（%）　＝　（恋愛・結婚）「したい」が実現できた人（人）
上記により算出した「既婚者になった人（結婚するであろう人）」　×　各出産実現確率（%）　＝　子どもを持つであろう人（人）

②**【「したい」の実現への効果】** 恋愛・結婚意欲がある人のうち、各課題の解決によって「したい」の実現ができた人の数を算出
「したい」の実現によって「1人目の子どもを持つであろう人」「2人目の子どもを持つであろう人」「3人目の子どもを持つであろう人」の数を算出し、効果とする

（恋愛・結婚）意欲がある人（人）　×　（1　-　実現確率（%））　×　（恋愛・結婚）課題を理由に「したい」が実現できない人の割合（%）
＝　（恋愛・結婚）課題解決により「したい」が実現できた人（人）
上記により算出した「既婚者になった人（結婚するであろう人）」　×　各出産実現確率（%）　＝　子どもを持つであろう人（人）

※「課題を理由に意欲がない人の割合」「課題を理由に「したい」が実現できない人の割合」はP32～34を参照
※「実現確率」はP5を参照

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

解決すべき課題の優先度算出方法（算出例詳細：未婚者）　～ステップ２～

未婚者

【意欲向上への効果】例）現在恋人がいないかつ恋愛意欲がない人（約555万人）の課題「経済的問題」の解決によって、「子どもを持つであろう人」の数（延べ数）を算出

・555万人（恋愛意欲がない人）　×　31.4%（経済的課題を理由に意欲がない人の割合）　＝　174万人（経済的課題の解決によって恋愛意欲が高まる人）

・174万人（経済的課題の解決によって恋愛意欲が高まる人）　×　29.5%（実現確率）　＝　51万人（恋人できた人の数）

・51万人（恋人できた人の数）　×　72.3%（結婚意欲あり）　×　58.9%（実現確率）　＝　22万人（結婚できた人）

・22万人（結婚できた人）　×　43.5%（子ども意欲あり）　×　64.9%（実現確率）　＝　6.2万人（1人目の子どもを持つであろう人の数）

・6.2万人（1人目の子どもを持つであろう人の数）　×　45.4%（2人目の子ども意欲あり）　×　70.8%（実現確率）　＝　2万人（2人目の子どもを持つであろう人の数）

・2万人（2人目の子どもを持つであろう人の数）　×　15.1%（3人目の子ども意欲あり）　×　50.8%（実現確率）　＝　0.2万人（3人目の子どもを持つであろう人の数）

・1人目の子どもを持つであろう人の数　＋　2人目の子どもを持つであろう人の数　＋　3人目の子どもを持つであろう人の数　＝　**8万人（恋愛意欲がない人のうち、課題「経済的問題」の効果により子どもを持つであろう人の数）**

※51万人（恋人できた人の数）のうち、「結婚意欲なし」で課題の解決によって「結婚意欲あり」になった人の出産数計算については割愛しております

【「したい」の実現への効果】例）現在恋人がいないかつ恋愛意欲がある人（約847万人）の課題「経済的問題」の解決によって、「子どもを持つであろう人」の数（延べ数）を算出

・847万人（恋愛意欲がある人）　×　（1-29.5%（実現確率））　×　23.0%（経済的課題を理由に「したい」が実現できない人の割合）　＝　137万人（恋人できた人の数（経済的課題の解決によって恋愛「したい」が実現できた人））

・137万人（恋人ができた人（経済的課題の解決によって恋愛「したい」が実現できた人））　×　72.3%（結婚意欲あり）　×　58.9%（実現確率）　＝　58万人（（自然に）結婚できた人）

・137万人（恋人ができた人（経済的課題の解決によって恋愛「したい」が実現できた人）　×　72.3%（結婚意欲あり）　×　（1-58.9%）　×　41.3%（経済的課題を理由に「したい」が実現できない人の割合）　＝　17万人（（経済的課題の解決により）結婚できた人）

・58万人+17万人（（自然に+課題解決により）結婚できた人）　×　43.5%（子ども意欲あり）　×　64.9%（実現確率）　＝　21万人（1人目の子どもを持つであろう人の数）

・21万人（1人目の子どもを持つであろう人の数）　×　45.4%（2人目の子ども意欲あり）　×　70.8%（実現確率）　＝　7万人（2人目の子どもを持つであろう人の数）

・7万人（2人目の子どもを持つであろう人の数）　×　15.1%（3人目の子ども意欲あり）　×　50.8%（実現確率）　＝　0.5万人（3人目の子どもを持つであろう人の数）

・1人目の子どもを持つであろう人の数　＋　2人目の子どもを持つであろう人の数　＋　3人目の子どもを持つであろう人の数　＝　**29万人（恋愛意欲がある人のうち、課題「経済的問題」の効果により子どもを持つであろう人の数）**

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

解決すべき課題の優先度算出方法（算出の考え方：既婚者）　～ステップ２～

仮に完全に課題が解決されることによって子どもを持つであろう人の数をシミュレーション。課題解決の効果をはかる。

既婚者への効果

【課題解決による効果の内容】

既婚者に対して「解決すべき課題」それぞれが解決された場合の以下の効果を算出

- **「子どもを持たない人」から「１人目の子どもを持つであろう人」の数**
- **「１人目の子どもを持った人」から「２人目の子どもを持つであろう人」の数**
- **「２人目の子どもを持った人」から「３人目の子どもを持つであろう人」の数**

【効果算出の考え方】

課題解決による効果を算出する際、以下の2パターンに分けて、結果「したい」の実現ができた人（子どもを持つであろう人）の数を算出した

①**【意欲向上への効果】** 出産意欲がない人のうち、各課題の解決によって意欲が高まる人の数を算出し、その中からさらに「したい」が実現できた人の数を算出
「したい」の実現によって「1人目の子どもを持つであろう人」「2人目の子どもを持つであろう人」「3人目の子どもを持つであろう人」の数を算出し、効果とする

（1人目･2人目･3人目の出産）意欲がない人（人）　×　（1人目･2人目･3人目の出産）課題を理由に意欲がない人の割合（%）
＝（1人目･2人目･3人目の出産）課題解決によって意欲が高まる人（人）
（1人目･2人目･3人目の出産）課題解決によって意欲が高まる人（人）　×（1人目･2人目･3人目の出産）実現確率（%）　＝　子どもを持つであろう人（人）

②**【「したい」の実現への効果】** 出産意欲がある人のうち、各課題の解決によって「したい」の実現ができた人の数を算出
「したい」の実現によって「1人目の子どもを持つであろう人」「2人目の子どもを持つであろう人」「3人目の子どもを持つであろう人」の数を算出し、効果とする

（1人目･2人目･3人目の出産）意欲がある人（人）　×　（1　-　実現確率（%））　×（1人目･2人目･3人目の出産）課題を理由に「したい」が実現できない人の割合（%）
＝　子どもを持つであろう人（人）

※「課題を理由に意欲がない人の割合」「課題を理由に「したい」が実現できない人の割合」はP32~34を参照
※「実現確率」はP5を参照

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

解決すべき課題の優先度算出方法（算出例詳細：既婚者）　～ステップ２～

既婚者

【意欲向上への効果】　例）現在子どもがいないかつ出産意欲がない人の課題「経済的問題」の解決によって、「子どもを持つであろう人」の数（1人目・2人目・3人目それぞれ）を算出

「子どもを持たない人」から「1人目の子どもを持つであろう人」の数

・367万人（1人目の子どもがほしくない人）　×　30.1%（経済的課題を理由に意欲がない人の割合）　＝　111万人（経済的課題の解決によって1人目の出産意欲が高まる人）

・111万人（経済的課題の解決によって1人目の出産意欲が高まる人）　×　64.9%（実現確率）　＝　72万人（1人目の子どもを持つであろう人の数）

「1人目の子どもを持った人」から「2人目の子どもを持つであろう人」の数

・338万人（2人目の子どもがほしくない人）　×　26.5%（経済的課題を理由に意欲がない人の割合）　＝　90万人（経済的課題の解決によって2人目の出産意欲が高まる人）

・90万人（経済的課題の解決によって2人目の出産意欲が高まる人）　×　70.8%（実現確率）　＝　63万人（2人目の子どもを持つであろう人の数）

「2人目の子どもを持った人」から「3人目の子どもを持つであろう人」の数

・680万人（3人目の子どもがほしくない人）　×　24.6%（経済的課題を理由に意欲がない人の割合）　＝　167万人（経済的課題の解決によって3人目の出産意欲が高まる人）

・167万人（経済的課題の解決によって3人目の出産意欲が高まる人）　×　50.8%（実現確率）　＝　85万人（3人目の子どもを持つであろう人の数）

【「したい」の実現への効果】例）現在子どもがいないかつ出産意欲がある人の課題「経済的問題」の解決によって、「子どもを持つであろう人」の数（1人目・2人目・3人目それぞれ）を算出

「子どもを持たない人」から「1人目の子どもを持つであろう人」の数

・283万人（1人目の子どもがほしい人）　×（1-64.9%(実現確率））×　11.0%（経済的課題を理由に「したい」が実現できない人の割合）　＝　11万人（1人目の子どもを持つであろう人の数（経済的課題の解決によって出産「したい」が実現できた人））

「1人目の子どもを持った人」から「2人目の子どもを持つであろう人」の数

・291万人（2人目の子どもがほしい人）　×（1-70.8%（実現確率））×　20.8%（経済的課題を理由に「したい」が実現できない人の割合）　＝　18万人（2人目の子どもを持つであろう人の数（経済的課題の解決によって出産「したい」が実現できた人））

「2人目の子どもを持った人」から「3人目の子どもを持つであろう人」の数

・130万人（3人目の子どもがほしい人）　×（1-50.8%（実現確率））×　19.6%（経済的課題を理由に「したい」が実現できない人の割合）　＝　13万人（3人目の子どもを持つであろう人の数（経済的課題の解決によって出産「したい」が実現できた人））

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

「出会いの欠如」解決による子どもを持つ人数　成功率（コンバージョン率）

（広義の）婚活それぞれによって「恋人ができた人」「結婚できた人」の各婚活平均値を成功率（コンバージョン率）とした

	実際に恋人ができた人	実際に結婚できた人
結婚相談所	22.3	17.0
婚活サイト・アプリ	18.3	15.1
恋活サイト・アプリ	14.6	8.4
知人に紹介を依頼	37.7	20.2
合コンに参加	24.1	8.5
婚活パーティ・イベントに参加	19.2	12.0
お見合い	6.5	3.2
趣味や習い事の場で相手を探す	13.8	6.3
フェイスブックなどのSNSで興味のあるコミュニティに参加	17.2	9.5
「恋人募集中！」と周囲に宣言する	13.0	3.3
誘われれば、出会いの機会になりそうな場にはできる限り参加する	14.0	6.2
趣味を絡めた出会い交流会に出席する	10.9	4.7
その他	15.4	15.4

（%）

平均値：　**19.4%**　**10.3%**

※各婚活それぞれの経験者のうち、それぞれで「実際に恋人ができた」および「実際に結婚できた」人の割合

「婚活実態調査調査2016（リクルートブライダル総研）」より

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

結婚から子ども1人目出産までの年数

既婚者の結婚から1人目出産までの年数を集計

	既婚者
N=	3564
結婚1年以内の子ども1人目出生率	29.6
結婚2年以内の子ども1人目出生率	14.9
結婚3年以内の子ども1人目出生率	8.0
結婚4年以内の子ども1人目出生率	5.3
結婚5年以内の子ども1人目出生率	3.3

(%)

既婚者のうち、結婚1年以内に1人目の子どもを出産する人は**29.6%**

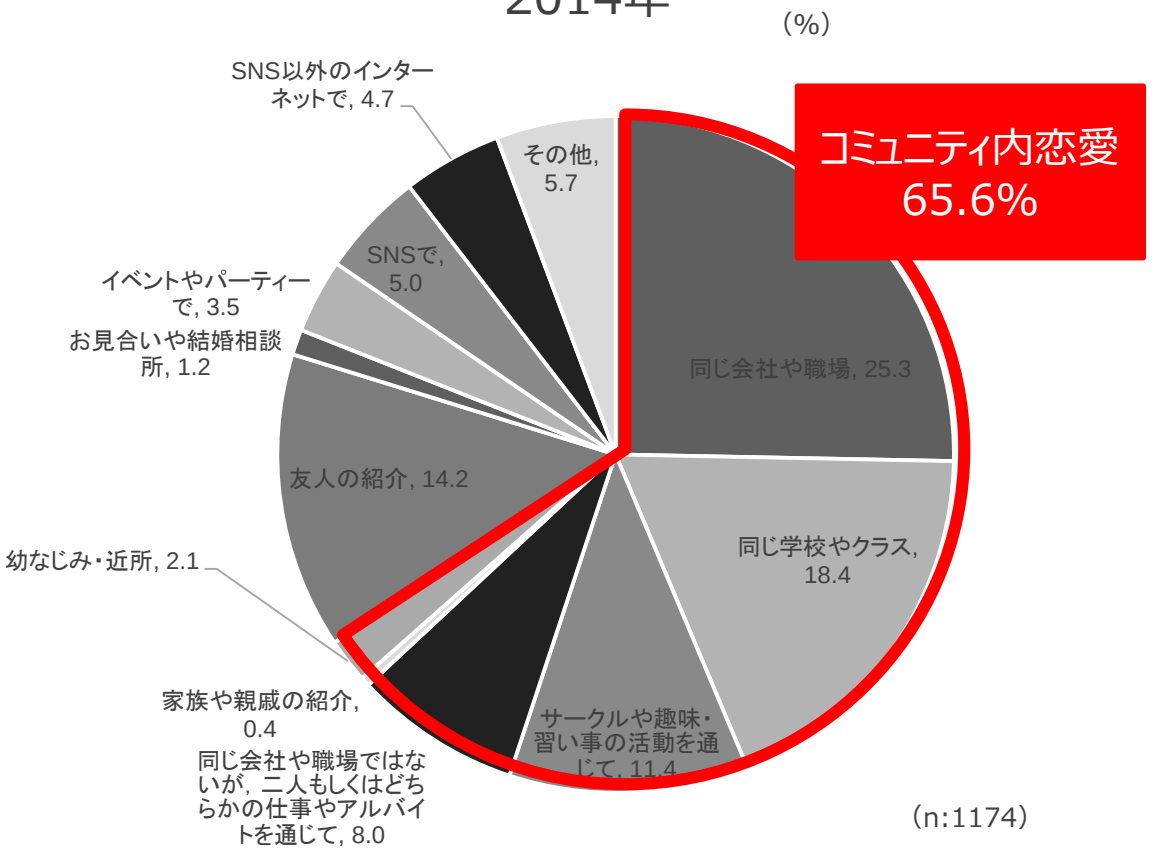
「少子化に関する調査2016（リクルートブライダル総研）」より

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

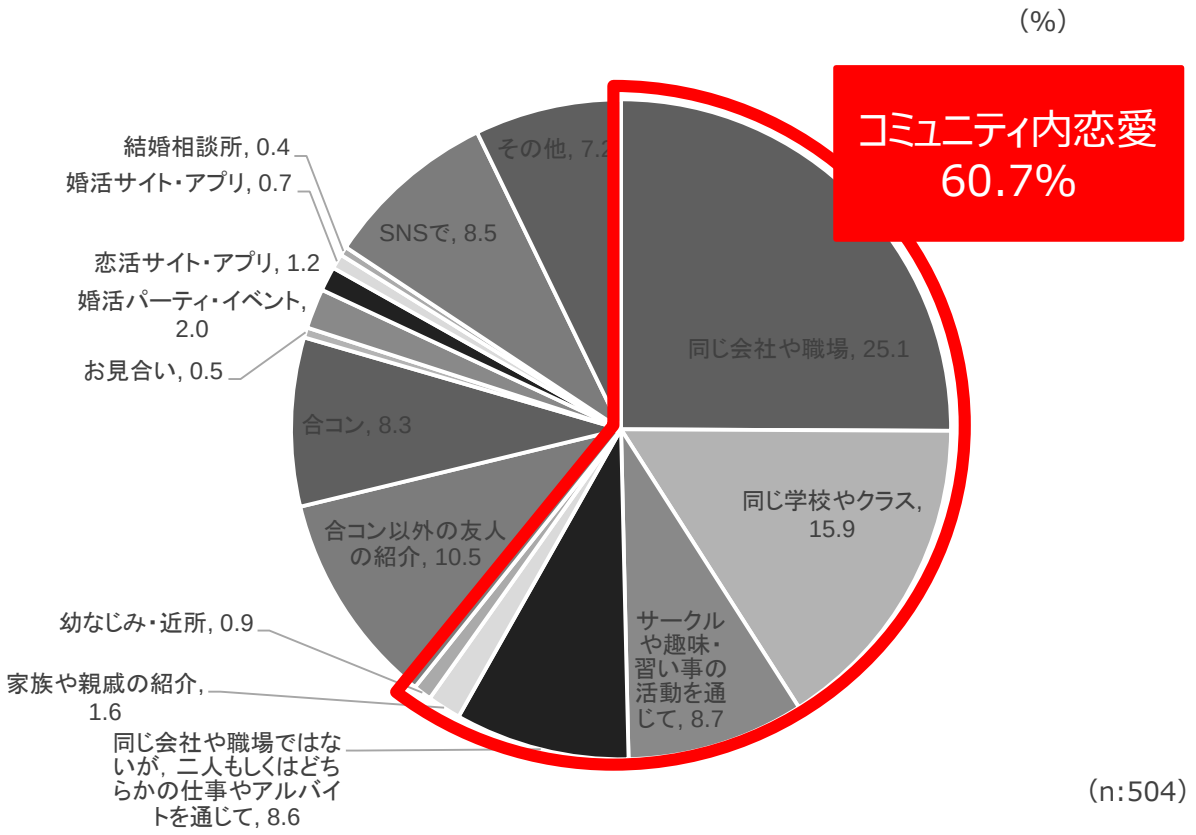
今の出会いは、職場や学校など自身のコミュニティ内での恋愛が減少

恋人との出会いのきっかけ

2014年



2015年

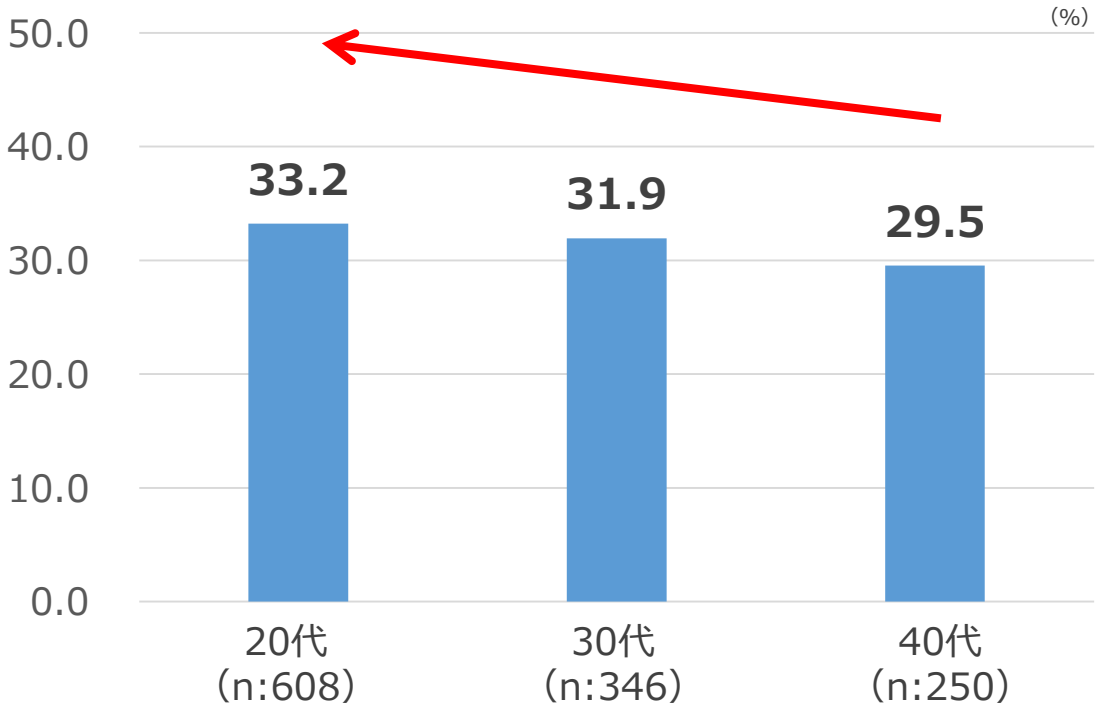


「恋愛観調査2014（リクルートブライダル総研）」
「恋愛・婚活・結婚調査2015（リクートブライダル総研）」より

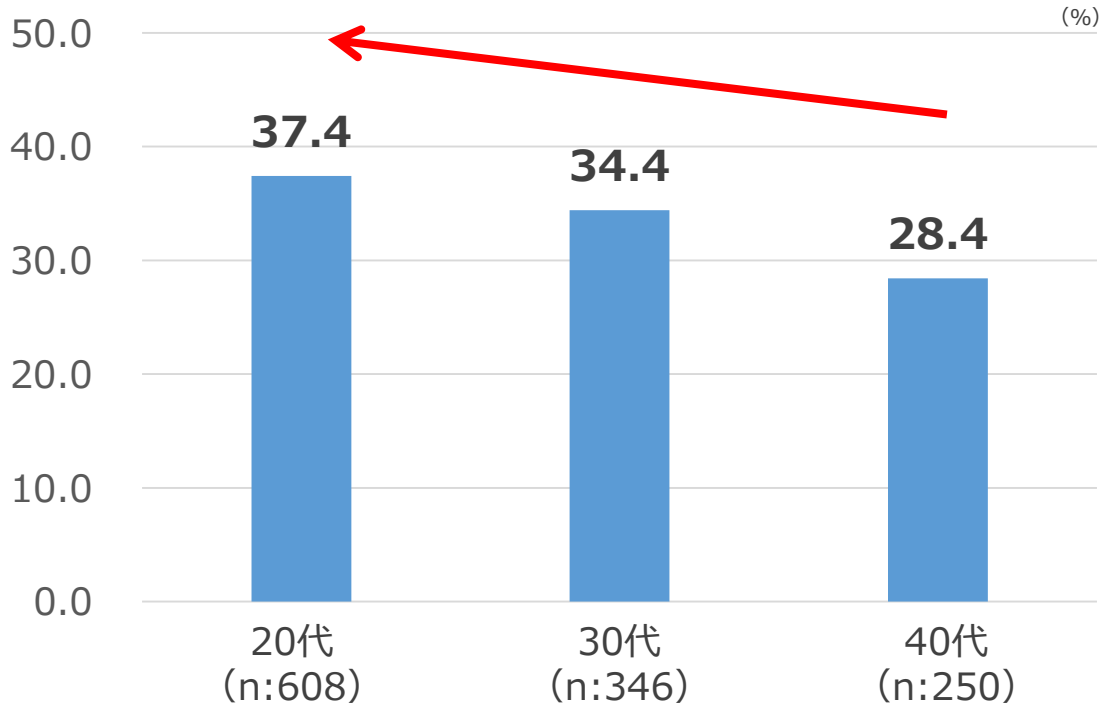
(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

若い人ほどコミュニティ内恋愛に消極的。さらに、振られるリスクも考慮し行動しない

コミュニティ（会社・サークル・仲良しグループなど）の中での恋愛は、なんとなく気が引ける



好きな異性がいても、振られるリスクを思うと告白したいとは思わない（仲のいい友人のままでも良い）



「恋愛・婚活・結婚調査2015（リクルートブライダル総研）」より

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.

◆出版・印刷物へデータを転載する際には、“少子化課題における解決優先度に関するレポート2016（リクルートブライダル総研調べ）”と明記いただきますようお願い申し上げます。
◆「少子化課題における解決優先度に関するレポート2016 」の詳細は、下記広報担当までご連絡ください。

リクルートマーケティングパートナーズではこれからも、ひとりひとりにあった「まだ、ここにない、出会い。」を届けることを目指していきます。

【本件に関するお問い合わせ先】
https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

(C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd. All rights reserved.